

2006年12月15日

1. 第58回支部大会終了

今年の支部大会は三重大学人文学部を会場として、10月7日(土)・8日(日)の両日開催されました。出席者は両日あわせて約150名でした。1日目には支部長の清水一嘉氏、三重大学人文学部長の井口靖氏の挨拶の後、慶應義塾大学教授、大津由紀雄氏の特別講演「言語理論と言語獲得研究の過去半世紀から学ぶべきこと」がありました。その後、4部屋に分かれて英米文学、英語学あわせて18の研究発表が行われました。終了後、午後6時半から懇親会が大学内の生協第一食堂で行われ、約40名の参加者を得て盛会でした。2日目はシンポジウムが2会場に分かれて行われました。「これからの小説批評：批評のリアリティを問う」、「英語俳句と現代アメリカ文学」のテーマのもと、それぞれ2時間30分にわたって講師の発表、参加者の質疑、討論が熱心に行われました。

2. 役員交代

上記の支部大会の総会、及びそれに先立つ理事会で監事と理事4名の交代が承認されました。監事は橋本功氏(信州大学)から服部義弘氏(静岡大学)に交代。理事の交代は下記のとおりです。

旧理事		新理事
鈴木 紀之 氏 (金城学院大学)	→	楚輪 松人 氏 (金城学院大学)
山本 勉 氏 (愛知教育大学)	→	安武 知子 氏 (愛知教育大学)
依岡 道子 氏 (名古屋女子大学)	→	伊藤 太郎 氏 (名古屋女子大学)
宇納 進一 氏 (三重大学)	→	小田 敦子 氏 (三重大学)

旧理事の先生方、任期中はいろいろありがとうございました。新理事の先生方、本会運営へのご協力をよろしくお願い致します。

3. 来年度の支部大会開催校決定

平成19年(2007年)の第59回支部大会の日程は10月7日(日)・8日(月)(予定)とし、会場校は愛知淑徳大学(名古屋市千種区)の予定です。ただし日程は変更になる場合もあります。

中部支部の大会は例年10月第3週の週末に開催していますが、このところアメリカ文学会の全国大会と日程が重なり大会の運営に支障が出ていました。そこで理事会、総会でもご了解いただきましたようにアメリカ文学会の日程を避けて実施することになりました。この時期は他の学会とも重なる可能性があります。会員の皆様には上記のような事情をご理解の上、今から予定に組み入れていただければ幸いです。

4. 第 59 回支部大会研究発表者募集

第 59 回支部大会で研究発表される方を募ります。研究発表を希望される方は平成 19 年（2007 年）5 月 31 日までに、氏名を付した発表要旨を 2 部と、所属などを記した紙 1 部を事務局宛にご提出下さい。要旨は、横書き、邦文で 300 字程度、英文の場合は 150 語程度、ワープロ原稿で提出して下さい。また、別紙に、氏名、略歴、所属、職位、連絡先（電話番号、e-mail アドレスを含みます）を記し、あわせて事務局宛にご提出下さい。

5. 本学会機関誌『中部英文学』第 26 号の発行予定

今回、本会機関誌『中部英文学』第 26 号への投稿は 12 編(英文学 6 編、米文学 6 編、英語学 0 編)ありました。この 12 編について 10 月 7 日の編集委員会で審議した結果、英文学 2 編、米文学 3 編の計 5 編が採用となりました。本号の発行は平成 19 年（2007 年）3 月下旬の予定です。

6. 編集委員長、編集副委員長、編集委員 4 名の交代

先の編集委員会で、2007 年『中部英文学』第 26 号発行以降の後任の編集委員長には松本三枝子氏が推薦され、理事会、総会で承認されました。編集副委員長には石川一久氏、書記には古口博之氏が推薦され編集委員会で承認されました。また、編集委員の鶴殿えりか氏、久野陽一氏、小林かおり氏、堀田優子氏は 4 年の任期が満了し、後任の編集委員として村山瑞穂氏（愛知県立大学、アメリカ文学）、梅正行氏（中京大学、イギリス文学、チャールズ・ディケンズ）、小西章典氏（大同工業大学、イギリス文学、16-17 世紀イギリス演劇）、守屋哲治氏（金沢大学、英語学、意味論、言語類型論、対照言語学）が推薦されました。旧編集委員の先生方には長年にわたるご尽力ありがとうございました。（なお、旧編集委員を含む現編集委員の先生方の任期は『中部英文学』第 26 号発行までとなっております。よろしくお願い致します。）

7. 日本英文学会と中部支部との関係について

第 58 回大会に先立つ理事会と編集委員会で、日本英文学会理事の天野政千代氏から「支部を基盤とする日本英文学会の運営」について説明がありました。説明によると、文部科学省の指導により、公益法人である日本英文学会は地方の支部を基盤とした組織の構築が急務になりました。地方支部が日本英文学会の基盤組織になることによるメリットとデメリットには次の事柄があります。メリットとしては、学会誌の統合号発行による論文の広範な周知、事務局の負担軽減、会員増などがあげられます。デメリットとしては、学会規約に地方支部の特性が反映され難い、地方支部が担ってきた若手研究者の育成という役割がなくなる恐れ、関東支部の力が増大する危険性、日本英文学会の総会を約 1 2 年に 1 回の頻度で地方支部が引き受けなければならないことの負担増、各支部毎

のアカデミックな水準の比較化がなされるなどがあげられました。この件につき、理事会及び編集委員会の議題となり議論が行われましたが、一致が見られませんでした。その結果、新旧事務局で議論をし、その結論を中部支部の結論とすることが理事会で決定されました。それを受けて、12月9日に信州大学にて天野政千代氏と旧支部長の清水一嘉氏、旧事務局長の塚本倫久氏、新支部長の橋本功、新事務局長の花崎美紀、書記の上田さおり、理事代表の高橋渉氏の合計7名で議論の場を設けました。

天野氏から、「レベルの向上を望めるし、積極的でなくても反対している支部はありません。」との説明があり、様々な観点から意見の開陳があった後、「統一は必要であるが、支部の独自性を保つ必要がある」との結論に達しました。この結論を中部支部の結論として、来年3月（予定）の日本英文学会理事会代表者会議で提案致します。

会員の皆様もご意見をお寄せ下さい。会員の皆様のご意見も併せて日本英文学会理事会代表者会議に提出したいと思っております。ご意見はメール（chubu@shinshu-u.ac.jp）でお寄せ下さい。

8. 『英文学研究 支部統合号』（仮称）の発行について

「支部を基盤とする日本英文学会の運営」を進めるにあたりまして、2008年度に『英文学研究 支部統合号』（仮称）を発行することが確定したと日本英文学会事務局から連絡がありました。（これは現在日本英文学会が発行している『日本英文学』とは別冊で、支部ごとに審査した論文を、「統合号」として日本英文学が発刊するものです。）

中部支部と致しましては、「統一は必要であるが、支部の独自性を保つ必要がある」との方針から、日本英文学会理事会代表者会議へ、編集スケジュールの調整など支部の意見を積極的にあげていきたいと思っております。

会員の皆様からのご意見をお寄せ下さい。（2007年1月9日まで。）会員の皆様のご意見も併せて日本英文学会事務局に提出したいと思っております。ご意見はメール（chubu@shinshu-u.ac.jp）でお寄せ下さい。

9. 「支部を基盤とする日本英文学会の運営」に伴う会費について

現在中部支部の会費は3,000円、日本英文学会の会費は7,000円です。新規会員から会費を一括徴収することになり、新規に会員になられる方は、10,000円を日本英文学会へ納めることとなります。現在すでに中部支部会員になっておられる皆様については、中部支部（3,000円）と日本英文学会（7,000円）の2ヶ所にお納め下さいますようよろしくお願い致します。（支部会員のみの方はできるだけ日本英文学会会員にもなって下さいますようお願い致します。）

10. 事務局の移転

日本英文学会中部支部は2006年10月8日より2年間「愛知大学 塚本倫久研究室」から以下に事務局を移転致しましたのでご案内致します。(郵便振替口座の番号は変わりません。) どうぞよろしくお願い致します。

〒390-8621 松本市旭3-1-1 信州大学人文学部 花崎美紀研究室内

TEL/FAX 0263-37-2267 e-mail: chubu@shinshu-u.ac.jp

振替口座 00890-7-10107 (変更なし)

11. 事務局ローテーションについて

平成17年12月10日開催の支部局長・事務局長選考委員会(於:愛知大学車道校舎)において、以下のことが決定されました。

「今後ローテーションで事務局を持ち回りにしていくことで一致したが、議論の中でローテーションの方式、順所については理事会で出た大学院生の人数については必ずしも基準にしないこと、支部長と事務局長は必ずしも同じ大学でなくともよいことを確認した。

また次期事務局をお願いするにあたり次の点を保証した上で交渉に当たることを了承した。事務局をお手伝いしていただく方(事務局非常勤職員)への人件費を保証すること、任期为短くして(現在2期4年が慣例化している)たとえば2年または3年で確実に交代できるような制度化すること。

今回、次期事務局を信州大学人文学部をお願いすることで一致した。信州大学の任期後のローテーションについては金沢大学にお願いし、続いて中京大学、南山大学にお願いする。その後については候補として愛知学院大学、愛知淑徳大学、金城学院大学、名古屋学院大学(五十音順)があげられた。(支部局長・事務局長選考委員会議事録議題2「新事務局選出の手順とその方法」より)

平成18年10月開催の中部支部理事会において、この決定に従い次期事務局は信州大学人文学部であることが確認されました。次期支部長候補の信州大学橋本功氏から、次期事務局の担当期間を2年間としたい、との発言があり、そのことが承認されました。

また、第3番目グループの中京大学、南山大学、第4番目グループの愛知学院大学、愛知淑徳大学、金城学院大学、名古屋学院大学については互選によって順番を決定することが承認されました。

日本英文学会中部支部事務局